

## ■プログラム名

### 人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## ■現状及び展望

- 交流相手校において本プログラムへの参加需要が高いため、本学予算を投じ受入を大幅に拡大する予定である。
- 学生の募集から派遣に係る一連のサポート環境が整いつつあるため、来年度から本学学生の派遣募集を通年とする。これにより、より多様な形で留学を実現させたいと考えている。
- タイにおいて同窓会立ち上げの準備中である。これにより、本プログラムに対するOB(産業界)の理解と協力を増していこうと考えている。来年はインドネシアを考えている。
- 2014年3月に教育研究交流会の開催を予定している。本学と同じアセアンの大学と交流している日本の大学と、教務上の課題と解決ヒントについて情報共有したいと考えている。
- 学修状況をよりの確に共同で評価すべく、10月にアウトカム・ベースド・ラーニングに関するFDを開催すると共にワーキング・グループを設置して議論を重ねている。

## ■問題点及び制度上の改正希望

- 1年間留学して6～7月に帰国する学生が、就職活動において不利とならないような配慮をするよう、政府から企業へ求めてほしい。
- 公務員試験が5月・6月に実施されているが、これを秋の実施に変更するなどの工夫により、1年間留学して6～7月に帰国する学生の就職の幅を狭めないようにしてほしい。

## ■学生交流数

交流方向	平成23年度	平成24年度	平成25年度(※)
受入	---	18	37
派遣	---	20	23

(※) 予定含む